2015

J・A・C

（第 31 号）

平成 27 年 6 月発行

社団法人日本山岳会千葉支部

発行者　三木雄三
編集者　吉野　聰

三木雄三
E-Mail　cib@jac.or.jp

平成 27 年度千葉支部総会　全議案を承認、新執行部が発足

誰でも参加できる山行を計画

郡界尾根踏査事業の継続　　千葉支部の特徴を発揮

公益社団法人・日本山岳会千葉支部の平成 27 年度通常総会が 5 月 24 日（日）、千葉市内で開かれた。支部会員93人のうち、29 人が出席。22 人から委任状が提出され、規約(三分の一の出席)により総会は成立。会友も 3 名出席。

今回の総会で、諏訪支部長の任期満了に伴い三木副支部長が新支部長に就任した。

執行部から提出された 26 年度事業報告及び決算報告・監査報告、27 年度事業計画（案）、予算（案）、支部役員（案）についてはいずれも賛成多数で可決・成立した。

今年度の事業は、

・会員の高齢化、参加者の固定化が進む中、誰でも参加できる山行計画を立てていく
・前年に引き続き「郡界尾根踏査事業」を継続　(11 月～3 月の冬季)し、千葉支部の特徴を発揮
・今年の海外山行はキナバル又はニュージーランドを検討している
・平成 29 年の支部設立 10 周年に向けて記念事業準備委員会を設立

等を中心として進めていくこととした。

また、支部役員 9 名（新任 5 名、再任 4 名）が選任され、任期2年目で在任中役員 7 名を加え新執行部は 16 名の体制となった。　　（関連記事役員名、3 ページ参照）

最後に、三木新支部長が「皆さんの協力を得ながらしっかりやっていきたい」と挨拶した。

総会に引き続き、坂上光恵会員が「私の海外高峰登山」と題して記念講演を行った。

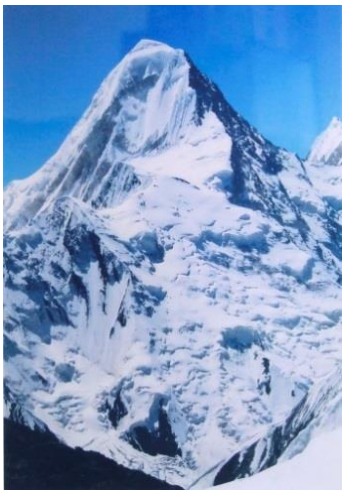
総会・講演会の終了後、会友の経営する和食「美弥和」において懇親会が盛大に行われた。　（吉野聰）

記念講演 「私の海外高峰登山」 日本山岳会千葉支部 坂上光恵

「地図が無く、空中写真を渡されてそこからルートを見つけて山に登った」「下山の途中、大きなクレバスに落ちた仲間を、闇の中ヘッドランプの電池も切れて小さな懐中電灯だけで助け出した」「下山は月明かりを頼りにテントにたどり着いた」。海外遠征を始めて 3 年目の 1989 年南テンシャンのタルガル峰での経験だそうだ。

支部会員の坂上光恵さんは 1987 年日本山岳会の女子隊でインドのシュヴァ峰に遠征したのをきっかけとして海外の高峰に挑戦している。最初のうちはテンシャンが多かったが、いろいろな人と知り合う中で世界各地の山に登るようになり、50 以上になったそうだ。坂上さんは自分が体験してきた日本の山ではありえないスケールの話や危なかった話、また、それぞれの国のお国事情等興味深い話を続けた。

エルブルース（5642m）
コーカサス



ハンテングリ（7010m）
テンシャン

最後に海外高峰登山を続けるためには、チャンスは逃さない、日ごろから日本の山に数多く登りトレーニングを重ねる、天候の悪い事態を想定し慎重に装備を用意する、人脈を大切にして幅広いネットワークを構築していくことなどの秘訣を語った。　（吉野聰）

平成 27 年度の千葉支部執行部

選出された支部役員（9 名）　（本文記事　1 ページ）

篠崎仁、髙橋正彦、三木雄三、山崎完治、　再任

塩澤厚、高橋琢子、山本哲夫、湯下正子、吉永英明、　新任

在任中の役員（7 名）

小板橋志郎、坂上光恵、鈴木美代、山口文嗣　、安間繁樹、谷内剛、吉野聰、

総 会 参 加 者

石岡慎介、岩尾富士夫、大沢雅彦、小澤けい子、神山良雄、小板橋志朗、坂上光恵、櫻田直克、佐藤明夫、塩澤厚、鈴木美代、諏訪吉春、節田重節、高橋琢子、竹島正義、谷内剛、津田麗子、土屋満、中島純忠、新村貞夫、三木雄三、柳下忠義、山口文嗣、山崎完治、山本哲夫、湯下正子、吉永英明、吉野聰　（会員 29 名）、梶田義弘、塩塚生二、鈴木さと子　（会友 3 名）　（五十音順、敬称略）

ご挨拶

会員・会友の「和」を大切に

支部長　三木雄三

「三代目が身上潰す」ということわざがある。登山の多様化、組織が変化する時代の中で、顧問の篠崎仁さんが基礎を作り、諏訪吉春さんがレールを敷いた千葉支部という『財産』をここで潰すわけにはいかない。そのためには何より会員・会友各位の「和」が必要だろう。そして「支部が何をしてくれるのではなく、われわれ一人ひとりが支部のため何が出来るのか」をもう一度考えてください。必ず良い知恵が出てくるものと信じています。

千葉支部は 2007 年 6 月 24 日、28 番目の支部として設立、再来年は設立 10 周年という節目の年を迎えます。そんな中で、支部会員の高齢化も進み、支部行事に参加する人たちの「固定化」という問題も生じている。新たな会員増強対策に特効薬などなく、地道な活動を継続することが基本。そして「千葉支部らしさ」を盛り込んだ山行も大事で「房総半島分水嶺踏査」や「郡界尾根踏査」などは、良い例だと考えます。

会員・会友の「声」を丁重に受け止め、「千葉支部にいて良かった」と言えるような山登りを楽しもう。

皆様のご支援・ご協力に感謝

前支部長　諏訪吉春

千葉支部会員・会友の皆様、このたび本年5月の総会をもちまして一期二年の短い期間ではございましたが任期満了となり退任いたしました。今まで何とか重責の任を全うできたのは，偏に皆様のご支援・ご協力の賜物であり衷心より感謝申し上げます。

思えば、千葉支部設立の準備会へのお誘いを受けましたのは、忘れもしません、2007年1月1日の前任の篠崎支部長からの突然の一本の電話でした。篠崎様とは全く面識もなく、なぜ自分がと不思議に思いましたが、暫時の会話で事情が判明しました。前年度に日本山岳会に入会した小生が同期の仲間達と前身の「101の会」なる同会を立ち上げ、その設立趣意書を同年の理事会にお諮りした事で当時の平山会長と篠崎理事がご覧になり、「千葉の人間だから、ついでにこいつにも連絡しよう」とのご判断でした。本当に僅かな準備期間で大変でしたが、日本山岳会の山歴豊富な皆様方との会話と協力のもと、現役の仕事では味わえない感激を覚えました。そして、今、振り返りますと、千葉支部に携わりまして今年で9年となりました。その間、事務局長、副支部長、支部長を務めさせて戴き、楽しい出逢い、悲しい別れ等、数多くの掛け替えない経験をさせて戴きました。

これからは千葉支部の会員として蔭ながらお手伝いを出来ればと考えております。2017年は千葉支部設立10周年を迎えます、三木新支部長の良きリーダーシップのもと、益々の支部の発展を切に願う次第です。

自然観察会　＆　酒蔵見学会　　3月1日（日）

鈴木美代

今年度の自然観察会をどこでどんな形式で行うか、ずっと悩んでいた。軍荼利山が県指定の天然記念物であることを知り、候補として秋に下見したが、いまいちインパクトがない。そんな時、吉野会員より、その近くにいい酒蔵があるよ、という情報をいただいた。酒蔵見学が自然観察とどう関わるか、大いに疑問であったが、昨年の冬芽観察があまりにマニアックであったことの反省から、息抜きを入れるために酒蔵見学と合体させることとした。

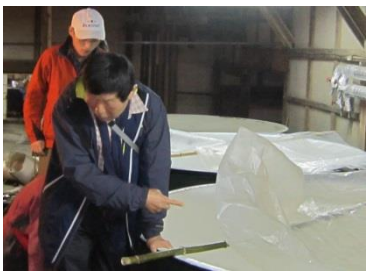
東浪見寺石段

３月１日、天気予報は雨模様。しかし、酒蔵にお願いしてあることではあり、決行とした。9時過ぎに上総一ノ宮駅に集合。この時点で雨はまだ降っていなかった。まずは、東漸寺にて、皇女和宮の御駕籠を拝見、お元気なご隠居さんに力をいただいて、一宮町立憩いの森へ向かう。途中、素掘りのトンネルを通り、切通しの道から憩いの森へ。がけの斜面にはコモチシダがいっぱいだった。季節がら子供はついていないが、分厚い葉と表面までくっきり見えるソーラスが特徴的だ。

ここから洞庭湖を経由して東浪見寺に向かう。途中、ゴルフ場内の一等三角点をこっそり見学。１月に下見した時は結局発見できなかったが、それもそのはず、マンホールの中に隠れていた。山口さんのおかげで到達できた。知っている人がいなけりゃ無理だ。

東浪見寺までの道は、スダジイをはじめとする照葉樹の林の中で、最高点を過ぎたあたりからは、今回の目的の県指定天然記念物の林の脇を通っている形になる。

東浪見寺へは200段ばかりの石段を上る。一宮町役場でいただいた資料ではシダ類が多いということで、ホソバノカナワラビ、リョウメンシダ、ヤブソテツ、オオバノイノモトソウなどを確認できた。また他で探してきたスダジイのどんぐりも見ていただき、集合写真を撮って、稲花酒造に向かう。このころから雨が本格的になってきた。



稲花さんでお昼を使わせていただき、甘酒をごちそうになって、酒蔵見学。江戸文政年間からという蔵のたたずまいや、壁に生き付く麹菌にも歴史を感じた。発酵中のもろみも見せていただいたが、樽の上に顔を出し過ぎると炭酸ガスが発生しているので危険、とのご注意にも臨場感があった。お酒もいろいろ試飲させていただき、思い思いに購入。良いお土産を得て、雨の中上総一ノ宮駅に戻った。

参加者：　鈴木美代（L）、宇津木仁典、大浦陽子、梶田義弘、梶田天兵、君塚紫、香高真奈美、篠崎仁、高橋琢子、廣村恵美子、柳下忠義、山口文嗣、山崎完治、山本哲夫、結城純一、吉野聰　（敬称略）

積雪の黒斑山、高峰山へ　　3月7日（土）～3月9日（月）

柳川しげよ

私にとって、昨年に引き続き 2 回目の参加となった。なぜ、毎年参加したくなるのか。それは、雪崩の危険もなく、ふわふわっとした雪と出会え、そして、なんといっても、快適な日大山岳部の山小屋に泊まれるということだ。高峰高原へは、新宿より直行のバスが 4 時間で結んでおり、アクセスも良好だ。

高峰山山頂

3月7日、新宿発 10 時 30 分ＪＲバスアサマ 2000 スキー場行きのバスに乗車した。バスの中は、満席だった。14 時 30 分アサマ 2000 スキー場で下車すると、先に車で来ていた、坂上さんが迎えに来てくれていた。歩いて 15 分程で山小屋に着いた。去年より雪は少なめだったが、山小屋の入り口は雪でふさがれていたので、男性がスコップで、道を作ってくれた。そして、山小屋へ。1 年ぶり。とても懐かしいと思っているのは、つかの間で、水が出ないハプニングが起こった。水抜きが不十分だったことが原因だった。そのうち、無事水も出て安堵した。ストーブの火も順調でパチパチと音をたて、みるみるうちに、部屋中が暖かくなり、外は銀世界、今夜の食事の準備にとりかかった。

雪の尾根歩き

3月8日、晴れ、黒斑山に向け９時出発。しきりに粉雪が舞う中、しらびその中を進む。パウダー状のふわふわとした白い雪の上を歩く足元は軽やかだが、視界は悪い。途中、たくさんのつぼみを持ったしゃくなげにいやされた。今度は、是非ともしゃくなげの花に迎えられた時期に訪れたい。歩き始めて 3 時間、頂上に。ここで、昼食。14 時高峰高原ホテルに到着、ゆっくりと入浴した。

3月9日、曇り、高峰山に向け、10 時出発。1 時間ほどで、頂上に着いた。ここで、集合写真を撮った。残念ながら、今日も、視界は悪い。それでも、ほんのひと時、カーテンを開けたように、小諸の街並みが見えた時は、感動した。下山すると、どしゃぶりの雨だった。それぞれ楽しかった思いを胸に、帰途についた。

参加者　：坂上光江（L）、高橋琢子、三木雄三、柳川しげよ、山崎完治、湯下正子、
吉永英明　、吉野聰　（敬称略）

お花見山行　晃石山　大平山　　4 月 18 日（土）

柳川しげよ

晃石山山頂

大　中　寺

浅草発東武線日光行 8 時 10 分に乗った。途中から、数名乗車した。お天気も良く、車窓からは青空の中、芽吹いたばかりの若葉が目を楽しませてくれた。この山は、地元の人も何度も足を運ぶ人気の山なので、仲間と登るのは楽しみである。　新大平下駅を 9 時３０分集合出発。歩き出すとすぐにＪＲ両毛線の踏切を渡ると、のどかな里山が広がっていた。

道標がしっかりしており、道に迷うことはない。ただ、あまりに新緑の美しさに見とれ、道標を見落とすことは、あるかもしれない。最初の目的地点は大中寺だ。下見のときは、通過したが、今回は、仲間としっかり参拝できた。八重桜が見ごろを迎えていた。また、めずらしい白の八重桜も咲いていた。そして、清水寺へ。せいすい寺と読むらしい。花の寺でもあり、まだ水仙としだれ桜がきれいに、咲きほこっていた。さあ、ここから、登山が始まる。桜峠までは、30 分。急坂が続く。少し足並みがそろわなくなる。

予定では、晃石山の頂上で、昼食をとる予定だったが、ここで、昼食とした。馬不入山に行く一行に出会う。是非、季節を変え、この山に訪れてみたい。12 時 30 分、晃石山山頂に向け出発する。手すりのついた滑りやすい急坂に注意しながら、登って 45 分。展望の良い晃石山に到着する。419mで本日の山行で一番高い地点である。日光連山が一望できる。記念写真を撮って、大平山神社に向かう。広い境内を持つ大平山神社で参拝し、1000 段の長い石段を下る。石段の両側には、思いがけずニリンソウの花に出迎えられた。大平山は、だんごと卵焼きが名物である。結局、反省会を浅草に決定したことから、蔵の街の散策は、できなかった。次回は是非、蔵の街の立ち寄りを勧める。

どのスポットでも花に出会え、花見山行にぴったりだった。また、大平山は、いろいろなルートからも登ることができ、楽しめる山である。「楽しかったよ」と参加された方からにっこりされると、こちらも嬉しくなる。やっぱり山は、やめられない。

参加者　：柳川しげよ（L）、岩尾富士夫、宇山一紘、小澤けい子、川島辰夫、小板橋志郎、
髙橋正彦、廣村恵美子、山口文嗣、山崎完治、吉野聰、渡邊信一・すみ子。（敬称略）

新緑とツツジの三ツドッケ　　5月9日（土）

三木雄三

一杯水避難小屋

三ツドッケ(1576m)は東京都と埼玉県の都県境で、雲取山から東に続く芋ノ木ドッケと三ツドッケ(天目山)間の、いわゆる長沢背稜にそびえる静かな山だ。「ドッケ」とは、「とんがり」の意味だといわれ、地図にも三つのピークがある。

新宿からホリデー快速に乗車。奥多摩駅で西東京バスに乗る。大半の乗客は川苔山か日原鍾乳洞へ向かうハイカーで、三ツドッケへ向かう客はわれわれだけだ。日原の集落からは本仁田山が立派に見える。10：10 スタート。登山口の標高は630m。まずはジグザグの登りを繰り返す「九曲がり」の急坂に一汗流す。このあたりは白い石がごろごろ転がっている。石灰岩だ。遠い昔、サンゴが固まってできた石が石灰岩で、登山道の近くにも採掘場がある。余談だが、石灰岩に熱や力が加わると大理石になる。

からだが染まってしまいそうな新緑に癒される。「緑」と言ってしまえば単色だが、透けたような緑もあれば濃い緑もある。葉の一枚、一枚の色が違う。そんな緑の向こうに本仁田山、川苔山が見えてきた。谷間に響くウグイスの「ホ～・ホケキョ」も心地よい。

道は「滝入ノ峰」(1310m)を巻くように足元が狭くなる。淡いピンクのトウゴクミツバツツジが出迎え、見下ろす倉沢谷、カロー谷には、まだヤマザクラも残っていた。倉沢から登ってくる道が合流すると、尾根の名前にもなった「ヨコスズ山」(1289m)で、小さな標識がブナの木に結ばれていた。

白いツツジはシロヤシオ。「まあ、シロヤシオ。山の精霊に出会えてよかった」と三田芳江さん。ここから一杯水避難小屋までは30分。最後の頑張りだ。足元のスミレやツツジに励まされ、13：35 避難小屋に到着。荷物を置いて山頂に向かった。小屋の気温は14度。慌ただしいが14時に下山開始、幸い雨にも降られず16：17発の奥多摩駅行バスの人となった。そして東京駅での反省会。大いに盛り上がった。

参加者：川島辰夫、髙橋正彦、三木雄三(L)、三田博・芳江、山口文嗣、山崎完治、吉野聰。（敬称略）

郡 界 尾 根 踏 査 の 報 告

第 4 回　　平成 27 年 3 月 15 日(日)

郡界尾根に初めて参加しました。雨の予報でしたが、曇りのまま、風も穏やかで歩くのには心地良い天候でした。

最初に丸太の橋があり「安全のため１人ずつ渡って下さい」との看板。「こんな所はまだ序の口ですよ」と言われ、先が思いやられる。

「初心者は前に」と言われ、リーダーの後ろに付いて行くが、息が上がってくる。高橋さんが「遅れると皆に悪いと思って急ぐと最後まで続きません。自分のペースでいいですよ」と声をかけて下さり、助かりました。

狭い尾根は一歩踏み外すと谷に落ちてしまいそうな、まるで恐竜の背を渡り歩いている様でした。後方から「きれいですねー、素晴らしい眺めですねー」と周辺の風景に感動されている声が聞こえます。途中の大きな木の幹に触って樹木の精霊と交感している香高さん。それに比べ、歩くことに精一杯、郡界尾根でなく限界尾根だと思っている私。

嵯峨山山頂

嵯峨山に着いて昼食。山で食べるフキの天ぷらとリンゴが美味しく、一息つきました。三木さんからここの眺めの由来を教わり、遠い昔に触れ新鮮でした。

道にはまだ水仙の花が咲き、満開の頼朝桜や菜の花が美しく、瀬高集落の辺りでは晴れて青空と白い雲のコントラストがとても綺麗で感動でした。初心者の私を加えて下さったリーダーや皆様、心に残る楽しい一日、本当に有難うございました。

（廣村恵美子）

コース：嵯峨山（水仙ピーク→嵯峨山→保田見→瀬高）

参加者：山口文嗣（Ｌ）、三木雄三（ＳＬ）岩尾富士夫（ＳＬ）、香高真奈美、髙橋正彦、能美勝博、廣村恵美子、柳川しげよ、吉野聰。（敬称略）

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

三ツドッケ

三田芳江

はじめまして、市原市在住の三田芳江と申します。

職場の先輩の高橋琢子さんに一年前に誘って頂き、千葉支部の会友になりました。昨年、支部の山行で「富山西尾根」、「筑波山」に参加させていただきました。

山登りは、子育てが一段落した 3 年ほど前から夫婦で出掛けるようになりました。初めての山登りは、ジーンズにスニーカー姿で「高宕山」、次に「伊予ケ岳」。伊予ケ岳ではロープにしがみついてよじ登りました。でも、高いところに登って、遠くまで見渡すとアラ素敵。気持ちがスッキリと晴れやかになりました。

山にハマるきっかけは皆さん同じようなものでしょうか。それ以来、主に夫婦で、時にはテントまで担いであちこちの山へ出掛けています。でも、このままでは「永遠の初心者」を卒業できないかも、ということで山岳会の会友にさせていただきました。読図・コンパス、基礎から色々勉強していきたいと思っております。

さて今回、GW 直後の 5 月 9 日、奥多摩の「三ツドッケ」支部山行に参加させていただきました。

新緑の季節の山頂付近ではツツジが美しいということで、期待に胸を膨らませて新宿駅から「ホリデー快速」に乗りました。奥多摩駅からバスで東日原で下車すると、あいにくと小雨がポツリポツリ。念のため雨具を着て、いざ出発です。ヨコスズ尾根の 3 時間も続く登りに不安もありました。

歩き始めて民家を過ぎるとすぐに急登、九十九折りの登山道をひたすら行きます。数えてみたら、9 回のジグザグの折り返し…ここが一番大変でした。天気も持ちそうなので、雨具は脱ぎました。

「滝入ノ峰」の東側を巻いて尾根に出ると、ミズナラやモミジ、ブナの大木などの新緑の木々が出迎えてくれました。心洗われる瑞々しい葉の色に癒され、深呼吸。期待通り「トウゴクミツバツツジ」「シロヤシオ」の紅白の美しい花々に出会えて幸運でした。

一杯水避難小屋にザックをデポして、三ツドッケ山頂に向かいましたが、帰りのバスの時間を考え、残念ながら山頂直下で断念しました。またこの山に来る理由が出来ました。

リーダーの三木さんに「ヤブレガサ」「アセビ(馬酔木)」等々、草木の名前の由来も教えてもらいながらの楽しい山行でした。

ご一緒させて頂いた会員の皆さんと楽しい時間を過ごせて本当に感謝しています。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

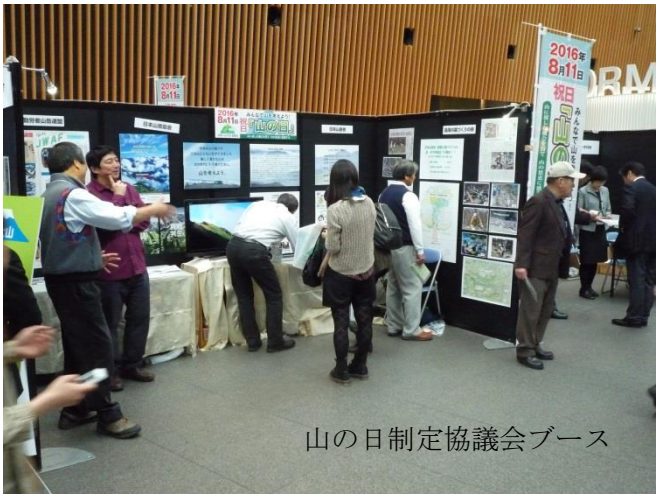
「山の日フォーラム」見てある記

三木雄三

2016 年から、8 月 11 日が国民の祝日「山の日」になる。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを目差した祝日だ。そんな「山の日」を広く知ってもらおうと 3 月 28、29 日の両日、東京・有楽町の東京国際フォーラムで「みんなで山を考えよう！全国『山の日』フォーラム」があった。

同フォーラム周辺では進学塾のイベントも催されていたことや春休みのため、大賑わい。中学生の男の子と一緒に山のフォーラムに足を運んだ女性は「『山の日』ができるなんて知らなかった。子どもとキャンプをしたことがあり楽しい思い出がある。良い事だと思います」と話していた。

ロビーでは山梨県、長野県、松本市などの自治体や山小屋組合、企業など約 70 団体がブースを出展。日本酒を並べたところもあった。日本山岳



山の日制定協議会ブース

救助犬ジロー

会など山の日制定協議会のブースでは東京多摩支部や山の自然学研究会の人たちから「こんにちは。千葉支部からは何人来たの…」と声を掛けられ、「もちろん、大勢できましたよ」。

また、地上広場では日本山岳救助機構（略称 JRO）がテントを張り、着ぐるみの救助犬「ジロー」が登場。外国人や子どもたちとジャンケンでイベントの雰囲気を盛り上げ、「やま食」の試食コーナーも大人気。『岳―みんなの山―』で第１回マンガ大賞を受賞した石塚真一さんらのトークショーや好日山荘、モンベル、石井スポーツなど登山用具メーカーのコーナーも人だかり。

そこで、われわれも、あるメーカーのクイズに参加してみた。

「日本の高山帯で地を這うように生えているのは□マツ？」、「地形図で、二つの等高線間の標高差は□メートル？」、さらに「九州の平尾台、四国の剣山、関東の武甲山に分布するのは□岩か？」など山の樹木や地図、石や岩に関する問題がズラリ。どうにか落第点は免れたが、「このフォーラムを記事にしなきゃ、支部だよりの原稿が埋まらないよ」と張り切っていた吉野さんも「難しいね…」と苦笑い。たのしいひと時を過ごしてきた。

井上靖文学講座

芳賀さん「あした来る人」をかたる

津田 麗子

2015 年 3 月 22 日、ビュフェ美術館大展示室に於いて、**≪あした来る人のモデル・登山家・加藤泰安をかたる≫**と題した文学講座が開かれた。

ふるさと井上靖文学館（静岡県長泉町東野）では、井上作品の楽しみ方を広げる新しい試みとして、**≪「あした来る人」から「氷壁」へ≫展**を開催（1/8~4/20）、その一環として企画された。

講師は、公私ともに泰安氏と親しく、京大チョゴリザ隊のメンバーだった芳賀孝郎さん（日本山岳会元副会長）である。

加藤泰安氏（カトウ ヤスサダ＝1911/11/17～1983/4/24）は、京大時代（戦前）に白頭山登頂、興安嶺、内蒙古遠征等、大陸に何度も渡り、戦後は第一次マナスル隊（1953）、チョコリザ（1958）、サルトロ・カンリ（1962）、ニューギニア中央高地学術調査(1963)等、戦前戦後を通じて日本山岳会の指導的役割を果たされた大先輩である。

れっきとした登山家でありながら探検家、旅行家としても活躍した泰安氏について、交友のあった井上靖は、『登山家というだけの呼称では全部を捉える事ができない。学者ではないが、その上に学術という言葉でもつけたくなる…。日本が持っている数少ない近代的登山家の一人で、しかもその第一人者であった』と記している。

小説「あした来る人」は、「氷壁」の 2 年前に発表され、代表作の背景としての存在も大きく、泰安氏の人柄が作品に大きく反映していると言われている。

井上靖との「あした来る人」の話し合いの場にも同席していた芳賀さんは、泰安先輩（タイアンセンパイ）そのものと言われる主人公の何気ない言葉や山への想いについて、文中に引用された部分を挙げ、貴重なエピソードを交えながら、話さ

れた。

講師の岳父三田幸夫氏（日本山岳会元会長）と泰安氏は、マナスル以来の最も親しい山仲間であった事から、加藤家と淳子夫人の実家である三田家や芳賀家の奇しき因縁も語られ、「山岳」小説の神髄に迫る内容であった。

講座には井上家ご長女の幾世さんも参加されており、定員（50 名）を越える希望者が会場を埋め、盛況だった。

石原國利氏（氷壁のモデル）、贄田統亜氏や右川清夫氏他学習院山岳部 OB、地元静岡支部の長田義則氏と實川欽伸氏など、所縁の方々が紹介されるサプライズもあり、平野紀子さん（群馬支部）、川口章子さん（緑爽会）も遠路をかけつけた。

終了後は、松本亮三館長の案内で、講演会場正面のふるさと井上文学館の展示を見学。福田豊四郎画伯による「あした来る人」の挿絵原画から「氷壁」の着想を得た、との秘話も伺う。

上船原・船原館での懇親会には 15 名が参加。芳賀夫妻、石原國利夫妻を囲んで、伊豆の名物料理を楽しみながら、遅くまで歓談した。

数年前まで千葉にお住まいだった芳賀さんは、千葉支部設立時の発起人代表であり、首都圏で初めて誕生した支部で、指導的な役割を果たされた。

日本山岳会名誉会員の加藤泰安氏については、2012 年発行の千葉支部だより（№19）に、寄稿もされている。改めてのご一読をお薦めしたい。

千葉城の桜　　4月3日（金）

今年の桜は天候に恵まれたのか、一週間近く満開が続いている。四水会の有志メンバー７人で猪鼻公園に繰出した。

ちょうど公園では、千葉市の春の風物詩である「千葉城さくら祭り」の開催中。お城のまわりに桜の花が一杯に咲き誇る。花の下に大勢の見物客が集まり、宴会の準備も始まっている。屋台も軒を連ねている。生憎、午後から南風が強くなり、花が飛び散っていくのが気になる。満開の桜も今日が最後かもしれない。

「せっかくきれいな花を見たんだから、ちょっと一杯のどを潤したいね」との声に、皆一斉に「それはいいね」と屋台に飛び込んでビールとお酒、おつまみは枝豆と芥子菜を注文。のどを潤している間に辺りは暗くなり提灯に灯が入り、ライトアップされた桜のむこうに千葉城が浮かび幻想的な美しさを醸していた。

そして、余韻とともに四水会のベースキャンプでもある居酒屋「美弥和」へと歩を進める。

サテライトからの便り（四水会　　春を訪ねて）　　吉野聰

旬のタケノコと花のいすみ鉄道　　4月5日（日）

千葉の秘境にある炉端焼き「童子」に旬のタケノコを食べに行こうと結城さんの車に便乗して一路大多喜へ向かう。房総の小江戸と言われる大多喜の町中を抜け 30 分くらい走ったところ。案内看板を左折、車１台がやっとの道を１キロ、素掘りのトンネルを抜けたところに「童子」があった。周囲から全く隔絶された別世界だ。部屋に案内され掘りごたつ式の囲炉裏を囲み席につく。ホタテ、シイタケ等々を焼き、しばらくするとお待ちかねのタケノコの刺し身、てんぷら、炊き込みご飯とみそ汁。さすがにこの地のタケノコはアクがないので食べても香りが良い。竹筒の中に入れた酒を囲炉裏で温め、竹のお猪口で飲む、これがまた旨い。2 時間弱の食事時間、「美味しかったね」「もう、お腹一杯」と、皆大満足。

帰りは今人気のいすみ鉄道の見学。線路の周囲は桜と菜の花が満開で、今が一番美しい季節。列車に乗ろうとする人や撮り鉄が詰めかけている。我々も西畑駅で写真を撮っていたところ、ちょうど人気のキハ 28（旧国鉄型気動車）の連結車両がやってきた。

登山のＡＢＣ　　（連載）

第４話　「歩く」　前号からの続き　　髙橋正彦

⑥ スタートから 10 分前後で衣服調整タイムを取ること。これは厚着の人は脱ぐ、寒い人は着る、その他、靴紐、ザックの片荷等を調整すること。なにしろ登山は寒かったら着る、暑かったら脱ぐをまめにやり出来るだけ発汗を最小限に抑えること。

⑦ 休憩時間は中高年では登りで荷が 15kg 以下なら 30 分～40 分に一回休憩とし、時間は５分前後（昼食時は別）とし、長時間の休憩はしないこと（せっかく温まった筋肉が硬くなります）。下りは山容により適宜です。

⑧ 休憩場所は落石の心配がないところ、転落のおそれがないところを選ぶこと。

このピッチ（30 分に一回休憩を取ることを、今日は 30 分、ワンピッチで行きますとリーダーが云った場合、それは 30 分に一回休憩を取ることを指します）を守りワンピッチを時間通り歩くのも大事ですが、途中で眺めのよいところがあれば休憩を入れ遠望を楽しむ余裕があってもよいと思います。

⑨ 登山道での小さな凸凹は出来るだけ、またいで凹の部分に足を置き体が上下しないよう水平に歩くこと。また凹地に雨水等が溜まっている場合は凸部分を利用して、水平に歩くことを心がけることは同じです。理由は無駄な体の上下を繰り返し体力を消耗しないためです。

⑩他人の取り付けた固定ロープは出来るだけ頼らないこと。頼る場合は一度体重をかけ強度を確認すること。

⑪ 手を使う場合は浮き石をつかまないこと、樹木の場合は枯れていないか、根がしっかり張っているか確認のこと。

⑫ もし落石を引き起こした場合は直ちに「落石（らくせき）」、または「ラクー」と大きな声で下方にいる登山者に知らせること。

⑬ 道を譲る場合は必ず山側に寄り、谷側の道を開けること。そうしないと道を譲った登山者と接触により転落する危険があります。

⑭ ストックの使用はあくまで歩行の補助用具であり、全体重は掛けないで下さい。使用の基本はグリップの位置を腰骨の横とし、腕が「くの字」に曲がる長さがよい。（登山教室等では腕を 90 度に曲げた位置とありますが、こだわらなくてよいと思います）

⑮ 従って、登りでは短くなり、下りでは長くして使用します。1 本の方と 2 本の方がいますが、これはどちらが優劣ということは一概に言えない。障害物がない登山道では 2 本ストックがよく、平坦もあれば岩稜もあるミックスした登山道では 1 本ストックの方が収納するのも簡単でよい。

（続きは次号で）

お　知　ら　せ

新入会員　（5.31 現在）

会員　節田重節（せつだ　じゅうせつ）さん
会友　山田紀夫（やまだ　のりお）さん

会員の異動　（5.31 現在）

会員　濱村　信さん　　退会
会友　吹野義憲さん　　退会

原稿募集

テーマ:「夏山の思い出」
思い出に残る夏山を綴ってお送りください。　800 字程度、
写真又はスケッチ（1～2 葉）
連絡先　吉野聰

親子で楽しむ山登り

＝日本山岳会のホームページでご覧ください＝

「山登りをしている家族」や「これから山登りを始めようとする家族」または「子供たちを山に引率する方々」が利用できるウエブサイトが立ち上がりました。

「日本山岳会ＨＰ」⇒「親子で楽しむ山登り」をクリックすると「登山おすすめコース」をはじめとした誰もが山登りしたくなる楽しい情報が満載のコーナーとなります。

この「登山おすすめコース」では、“さあ山登りを始めよう”として〈親子で登る 100 名山〉を紹介。県内の鹿野山、鋸山、大房岬も入っています。

日本山岳会パンフレット

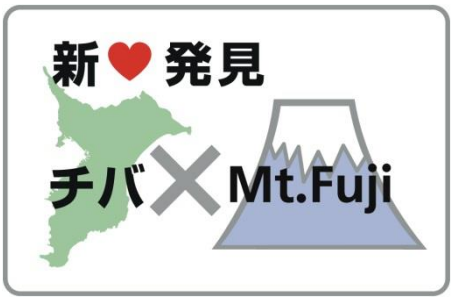
富士学会 2015 年春季学術千葉大会（富士学会主催）を共催

富士山に関する研究を推進している富士学会と春季学術千葉大会を開催することを契機として、千葉県と富士山とにかかわる研究が進むとともに、富士山とのかかわりによって、人々の暮らしがより豊かなものになることに寄与できることを期待します。

なお、1 日目の総合討議に三木支部長がコメンテーターとして出席予定。

開　　催　　概　　要

大会テーマ　：「富士山と千葉県の関わり」
期　　日　：平成 27 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）
日　　程　：1 日目　講演、総合討議、写真展「房総からの富士」
会　　場　：千葉県立博物館



田部井淳子さん講演会「エプロンはずして夢の山」

千葉県ユニセフ協会は「ユニセフのつどい 2015『welcome unicef』 」で田部井淳子さんの講演会を開催します。

期　　日　：平成 27 年 7 月 5 日（日）13：30～15：40　（受付 13：00～）
会　　場　：オークラ千葉ホテル 3 階　エリーゼルーム　　（ＪＲ京葉線「千葉みなと駅」下車）
申　　込　：千葉県ユニセフ協会
　　TEL 043-226-3171、 FAX 043-226-3172、 HP http//www.unicef-chiba.jp
定　　員　：先着順 200 名

役 員 会 の 報 告

３月報告　3 月 17 日（火）　市川アイリンク　（出席者：敬称略五十音順）
出席者　小澤、櫻田、鈴木、諏訪、三木、谷内、山口、山崎、山本、湯下、吉野　11 名
◎報告及び連絡事項
・山行報告（陣馬山 2.21、軍茶利山 3.1、高峰・黒斑山 3.7～3.9、郡界尾根 3.15）
・総会準備（26 年度事業及び決算について、27 年度事業計画及び予算について、役員改選）
◎予定
・全国支部懇（四国支部）　4.11～4.12　・山行予定（花見山行・大平山 4.18 等）
◎検討事項
・27 年度海外山行について　・会員、会友の増強について

４月報告　4 月 21 日（火）　市川アイリンク
出席者　小澤、小板橋、坂上、鈴木、諏訪、三木、谷内、山崎、山口、山本、吉野　11 名
◎報告及び連絡事項
・山行報告（花見山行・栃木:大平山 4.18）　・総会準備（議案書発送、講演会講師坂上光恵会員）
◎予定
・自然保護全国集会（7.11～7.12　東京都青梅市）
・富士学会 2015 年度春季学術千葉大会（6.27～6.28　千葉県立中央博物館外）

５月報告　5 月 19 日（火）　市川アイリンク
出席者　岩尾、小澤、小板橋、坂上、鈴木、諏訪、高橋（琢）、髙橋（正）、三木、谷内、山口、山本、湯下、吉野　14 名
◎総会最終確認　◎海外山行

山　行　の　予　定

（6 月以降、支部行事等含）

行　き　先	日　程	申　込　先	締　切	備　　考
富士学会 2015 春季学術千葉大会	6.27（土）	申込不要		千葉県立博物館
関大塚山 高溝渓谷	7. 4（土）	山口文嗣	6.20（土）	房総の山と渓谷歩き
佐原大祭	7.11（土）	三木雄三	7.4（土）	10 名限定 先着順
自然保護全国集会	7.11（土） ～12（日）	JAC 自然保護委員会と多摩支部共催	申込受付終了	東京都青梅市
ビールパーティー	8.22（土） 16:00　～ 18：00	谷内剛	7.31(金)	会場（＊下欄） 会費 4500 円 定員 20 名先着順
御岳山から日ノ出山	8.30（日）	小澤けい子	8.20(木)	公益事業 ・晴香園の引率
平標山 仙ノ倉山	9. 12(土) ～13（日）	山口文嗣	8.29（土）	平標小屋泊
敬老の日ハイキング 上高岩山	9.20（日）	三木雄三	9.10（木）	御岳山ロープウエーから登ります
谷川天神平と 一ノ倉沢周遊	10.24（土）	山口文嗣	10.20（火）	紅葉の天神平と一ノ倉沢の岩壁を探勝

＊ビールパーティー会場　　EKIMISE(松屋浅草)屋上　「浅草ハレテラス」
東武スカイツリーライン「浅草駅」直結、東京メトロ銀座線「浅草駅」徒歩 1 分

海外山行について

（詳細は 9 月号掲載）

今年度の海外山行は、ニュージーランドを予定します。

総会に於いて、今年の海外山行はキナバル又はニュージーランドで検討している旨の報告をしましたが、ニュージーランドを希望する会員の声が多数寄せられたところです。

これを踏まえ、「2 月にニュージーランド」を軸として計画を立ててまいります。